



小児の言語・コミュニケーション能力の発達に関する研究

保健福祉学部 コミュニケーション障害学科
助教 小島 理恵子 (こばたけ りえこ)

連絡先 県立広島大学 三原キャンパス 1321号室
Tel 0848-60-1120 (代表) Fax 0848-60-1134 (代表)

専門分野： 言語発達障害学 小児コミュニケーション障害

キーワード： 発達障害 自己認知

● 主な取り組み・活動

「自閉症スペクトラム症」もしくは、「自閉症スペクトラム障害」とは、DSM-5において、持続する相互的な社会的コミュニケーションなどの障害や、限定された反復的な行動などといった、2つの基本的特徴によって定義されています。中でも、近年、知的発達の遅れを伴わない「高機能」と呼ばれる群が、過去に想定されていたよりも、はるかに多いことが報告されています。高機能群は、知的レベルが高いがゆえに、発達に伴い自他の相違に気づきやすく、その気づきによって自己評価が低下するなどの二次障害につながることも少なくありません。こういった背景から、自閉症スペクトラム児・者の自己について検討する研究がみられるようになってきましたが、児童期の中盤から思春期にかけての研究が中心であり、就学前の幼児期を対象とした研究はほとんどありません。

早期から適切な支援があれば、思春期における適応の度合いが高まるとの指摘をふまえ、自閉症スペクトラム児の自己の発達過程を明らかにすることを目的に、就学前の自閉症スペクトラム児を対象とした自己認知に関する研究を進めています。

また、自己の発達と関連する要因として、他者の視点は非常に重要であり、自閉症スペクトラム児において発達が遅れるといわれる心の理論の発達（他者の意図や知識、信念、思考などの心の

内容を推測する能力）に着目し、自己の発達と心の理論の発達との関連についても研究を進めています。

● 今後の目標・抱負

言語・コミュニケーション能力の発達に関して支援が必要なお子さんが、ライフステージを通して、安定した自己肯定感や自尊感情を保つために必要な支援とは何か、臨床や研究を通して検討していきたいと考えています。

● 地域・社会と連携して進めたい内容

これまでの幅広い臨床現場での経験を活かし、また、附属診療センターでの、知的障害、自閉症スペクトラム障害、学習障害、注意欠陥／多動性障害などに伴うコミュニケーション障害の支援の実践を通して、実際に必要とされている支援及び連携について検討していきたいと考えています。また、こうした実践を通して、地域の様々な施設、医療機関、団体の方々と連携し、地域で暮らす発達障害児に対する支援全般の質の向上を目指し、地域の中で必要な支援が受けられる環境作りに貢献していきたいと思えます。

● これまでの連携事例・実績

保育所、幼稚園、こども園、小学校、特別支援学校、 等